

## 日中両国における漢字の異同について

著者	芝田 稔
雑誌名	関西大学東西学術研究所紀要
巻	19
ページ	A41-A56
発行年	1986-03-31
その他のタイトル	Different Usage of Chinese Characters in China and Japan
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10112/16028">http://hdl.handle.net/10112/16028</a>

# 日中両国における漢字の異同について

芝 田 稔

## I ま え が き

戦後40年を経た今日、日中両国の友好と交流関係が単に文化・経済方面だけに止まらず、人びとの間に幅広く且つ奥深く浸透し、ますます親密度を加えてきているが、こうした熱いムードの中であって、日中両国の現行漢字のちがいが双方の意思疎通を大いに阻害しているとして、人びとの注目するところとなっている。何しろ“日中同文”という古来からの漢字によって結ばれてきた日中関係の親密度が、中国の文字改革、特に漢字の簡略化が実施された結果、大いに阻害されていることに気付きはじめ、日中双方が現行の簡略字体をさらに討議研究して、その統一を計り、簡略字を日中共通にすることが望ましい、という希望的観測も生れてきたのである。

日中両国における現行漢字の異同については、今にして発生した現象ではない。1949年10月中華人民共和国成立以来、中国政府が行なって来た文字改革の推進過程で、徐々に進行していたものであって、それに気付くのが遅かっただけのことである。中国では、30年前の1956年1月に、第1次漢字簡略化方案<sup>①</sup>が公布された。当時、一部識者の間から、日中双方で研究交流を行ない、日中共通の略字を制定してはどうか、という提案がなされたこともあった。しかし、この提案は当時の日本の政治情勢からいえば、無いものねだりをする考え方だ、として顧みられなかった。さらにまた、専門家の間では、文字は言語を表記する工具であり、したがって日中両国が共通の言語を使用していない以上、それぞれの言語を表記するための文字は、それぞれの言語にふさわしい文字を使用すればよいのであって、わざわざ無理にその共通を求める必要はない、と考えられていたのである。

したがって、中国の文字改革・特に漢字の簡略化について、一般には全く無関心であった、といっても過言ではない。一方、日本の専門家たちも中国の文字改革は、中国独自の文化政策であって、とやかくいう筋合のものではない、節々に中国から公表される情報を頼りに、中国の言語文字に関する動向を追い掛けていたにすぎないのであった。

今日、日中間の往復書簡や文書類および新聞・雑誌・書籍等あらゆる印刷物は、使用されている漢字の字形変化によって、不便を感じる人のいることは事実である。したがってまた、中国側にも簡体字の日中共通が実現できれば大いに利便となる、と希望する向きもないわけではない。

では、中国で文字改革が行なわれた結果、日本はどのような不便を蒙っているのか、その実情はどのようなものであるのか。さらに一步進めて、簡略漢字の日中両国の統一が可能であるのか否か。以下「教育漢字」<sup>③</sup>を基礎資料として、日中双方の通用漢字の異同を明らかにし、私見を述べることにする。

## II 「教育漢字」と簡体字

「教育漢字」996字とこれに対応する中国の現行通用漢字<sup>④</sup>とを比較対照して、その異同を確かめようとするのであるが、いうまでもなく日中両国の現行漢字のうち、中国の文字改革によって簡略化された簡体字でも、元に遡ればいずれも「本字」(中国語の繁体字)に帰一するものであるから、ここでの調査対象は日本・中国現行の略字のみとする。但し、日本では「本字」を使用しているが、中国でその簡体字(略字のこと)が正字として通用している場合およびこれとは逆に、日本では略字を使用しているが、中国では未だ簡略化されずその「本字」が通用している場合は、その限りではない。

現在中国で通用している常用漢字を用う。但しその字形をどの字典に求めるかが、この場合最も重要な事項となる。ここでは『新華字典』(1971年修訂重排本)を用いることにした。というのは、その後中国で出版発行された詞典類は、いずれも上記字典の字体を用いているからである。

1 異形略字(458字) 異形略字を調査するに当って、以下の8種類<sup>⑤</sup>に分ける。すなわち同音代替字、部分省略字、草書楷化字、形声字、異体字、異形字、偏旁簡略字および筆法不同字の8種類である。

(1) 同音代替字(10字) この漢字群はいずれも「本字」であり、同音漢字のうちから画数の少ないものを簡体字として代替使用しているもの。したがって、同音ということが主眼点であるため、意義の面では全く見当のつかない同音字が当てられていることもある。日本側から見て意外なことが多いが、それは当初中国でも初学者には福音であっても、「本字」に慣れているものにとっては苦痛であった。

(学年) (字数) (左は日本漢字, 右は中国漢字)

1	0	
2	1	雲 云
3	3	係 系 葉 叶 週 周
4	0	
5	3	幹 干 製 制 穀 谷
6	3	捨 舍 裏 里 誌 志

(2) 部分省略字 (46字) この簡体字は同音代替字のように「本字」を用いるのではなく、「本字」の一部分或は大部分の筆画を削除して省略し簡略化したもの。但し「教育漢字」を下敷にして対照するため、中国古来の「正字」であっても、筆画数のちがいによって、この項に入れたもの2字(歩:步, 決:決)。

(学年) (字数) (左は日本漢字, 右は中国漢字)

1	1	気 气
2	6	帰 归 広 广 時 时 親 亲 電 电 歩 步
3	8	開 开 宮 宫 業 业 決 決 習 习 対 对 陽 阳 様 样
4	10	関 关 競 竞 殺 杀 産 产 浅 浅 単 単 飛 飞 標 标 類 类 録 录
5	13	衛 卫 際 际 雑 杂 児 儿 術 术 準 准 総 总 築 筑 婦 婦 復 复 復 復 豊 丰 務 務
6	8	拡 扩 郷 乡 濟 济 従 从 縦 纵 将 将 庁 庁 奮 奋

(3) 草書楷化字 (16字) 草書体を楷書化した簡体字のこと。当初不恰好であるとの誹謗もあったが、初学者には歓迎された。手書きの場合、「車」と「東」が曖昧であったり、「発」とも同じ簡体字であるので注意が必要である。

(学年) (字数) (左は日本漢字, 右は中国漢字)

1	2	見 见 車 车
2	10	貝 贝 魚 鱼 書 书 長 长 鳥 鸟 東 东 馬 马 風 风 門 门 楽 乐
3	3	島 岛 湯 汤 発 发

## 4 1 焼 烧

(4) 形声字(32字) 偏旁の一方が音を、一方が意を表わす造字法による簡体字であり、音を表わす部分が同音異形で画数の少ない漢字を以て代替されている。例えば「遠」「園」は「袁」を「元」(中国語音ではいずれも yuán) で代替されているなどである。したがって日本読音では分りにくいのが難点である。

(学年) (字数) (左は日本漢字, 右は中国漢字)

1	0														
2	1	遠	远												
3	5	運	运	園	园	階	阶	勝	胜	進	进				
4	11	囲	围	億	亿	機	机	機	极	芸	艺	種	种	積	积
		選	选	達	达	歴	历	戦	战						
5	9	価	价	潔	洁	護	护	構	构	講	讲	識	识	織	织
		職	职	態	态										
6	6	劇	剧	憲	宪	認	认	補	补	郵	邮	優	优		

(5) 異体字(13字) 本来の「正字」に対して「俗字」として通用していた画数の少ない漢字を簡体字としたもの。但し日本漢字は略字, 中国漢字が「本字」のものもある。

(学年) (字数) (左は日本漢字, 右は中国漢字)

1	0												
2	1	後	后										
3	3	乘	乘	農	农	兩	两						
4	0												
5	6	義	义	個	个	効	效	収	收	仏	佛	無	无
6	3	尙	式	窓	窗	式	式						

(6) 異形字(90字) ここに分類した漢字は上記(1)~(5)までの各項に入れにくいもので、これを異形字としてまとめてみた。この中にも日本略字に対し中国では「本字」を使用しているものがある。例えば「仮：假」「円：圓」「蔵：藏」「拝：拜」などである。

(学年) (字数) (左は日本漢字, 右は中国漢字)

1	1	円	圆												
2	5	図	图	売	卖	買	买	頭	头	画	画				
3	11	悪	恶	駅	驿	県	县	橋	桥	実	实	転	转	動	动

		線 线	齒 齿	藥 药	遊 游							
4	27	愛 爱	榮 荣	塩 盐	漢 汉	觀 观	願 愿	協 协				
		驗 验	拳 拳	殘 残	勢 势	節 节	倉 仓	孫 孙				
		帶 带	隊 队	貯 贮	伝 传	熱 热	筆 笔	辺 边				
		変 变	満 满	着 着	輪 轮	陸 陆	勞 劳					
5	21	圧 压	營 营	応 应	仮 假	過 过	確 确	歛 欢				
		興 兴	險 险	檢 检	師 师	質 质	衆 众	經 经				
		適 适	敵 敌	導 导	備 备	弁 办	報 报	災 灾				
6	25	異 异	勸 劝	権 权	嚴 严	誤 误	鋼 钢	冊 册				
		積 释	樹 树	処 处	傷 伤	聖 圣	專 专	創 创				
		層 层	蔵 藏	臓 脏	難 难	腦 脑	拜 拜	訳 译				
		臨 临	沿 沿	徑 径	論 论							

(7) 偏旁簡略字 (104字) 漢字の偏と旁の両方、またはそのどちらかの一方を簡略化したものである。例えば、偏旁の両方を簡略化したものには「議:议」「続:续」「錢:钱」など、どちらか一方を簡略化したものには「説:说」「飯:饭」や「題:题」「鳴:鸣」などがある。

(学年) (字数) (左は日本漢字, 右は中国漢字)

1	0											
2	12	繪 绘	間 间	顔 颜	記 记	計 计	語 语	紙 纸				
		組 组	聞 闻	鳴 鸣	読 读	話 话						
3	17	飲 饮	館 馆	級 级	銀 银	輕 轻	細 细	詩 诗				
		終 终	題 题	帳 帐	調 调	鉄 铁	負 负	問 问				
		緑 绿	員 员	産 产								
4	22	貨 货	課 课	覚 觉	紀 纪	議 议	給 给	漁 渔				
		鏡 镜	結 结	試 试	順 顺	賞 赏	説 说	談 谈				
		敗 败	飯 饭	費 费	約 约	練 练	軍 军	腸 肠				
		続 续										
5	33	賀 贺	額 额	慣 惯	規 规	許 许	訓 训	絹 绢				
		現 现	鉞 矿	財 财	賛 赞	資 资	謝 谢	証 证				
		責 责	績 绩	設 设	絶 绝	錢 钱	測 测	貸 贷				

		張 张	統 统	銅 铜	評 评	貧 贫	編 编	賃 賃
		綿 绵	損 损	輸 输	預 预	領 領		
6	20	遺 遗	閣 阁	簡 简	揮 挥	貴 贵	紅 红	視 視
		詞 词	縮 缩	純 纯	諸 诸	針 针	誠 诚	頂 頂
		賃 賃	討 讨	納 纳	閉 闭	訪 访	覽 覽	

(8) 筆法不同字(147字) ここに分類される日中双方の漢字は、その筆法および形態が相違しているもの、また筆画数に多少の違いがあるもので、これらの漢字は一見して日中同形漢字として把握できるのであるが、しかし厳格に言えば、やはり日中同形漢字であるとはいえない。というのは日本の児童が「教育漢字」によって覚えこんだ日本漢字を下敷として、その上に現行中国漢字を当嵌めて対照してみると、その形態の違いが歴然としてくるからである。では、その例をあげよう。

① 画数は同じであるが、筆法の異なる例。

a 「点」から起筆する「うかんむり」「けいさんかんむり」「まだれ」「やまいだれ」「りつへん」「ころもへん」等等、これらの「点」は、日本漢字では“上に力を入れて垂直におろした点”であるの対し、中国漢字は“斜め左上から軽く入り、右下へおろし、最後に力を入れる点”である。つまり筆写の場合、同じ「点」であってもその力の入れどころが全く逆であり、垂直と斜めの違いが大きい。その実例の一部をあげてみよう。左側が日本漢字、右側が中国漢字である。(以下これに従う)

字：字 文：文 交：交 立：立 市：市 度：度 病：病 衣：衣

b 「しんにょう」について「教育漢字」は、「讠」に統一している。これは中国漢字の「讠」とは異なる。因みに『広辞苑』では“讠”は4画に数えたが、当用漢字体では「讠」を用いるので3画に数えたとしており「教育漢字」の「讠」とは違っている。例えばつぎのようである。

迷：迷 退：退 造：造 逆：逆

② 画数は同じであるが、字形が多少違っているもの。これは案外多いのである。例を示せば一目瞭然である。

天：天 夕：夕 今：今 戸：戸 考：考 船：船 究：究 灰：灰  
 旅：旅 深：深 別：別 包：包 所：所 直：直 置：置 団：団  
 底：底 舎：舎 衿：衿 割：割

③ 画数に多少の違いがあるものに、つぎの例がある。

毎：毎 海：海 差：差 着：着

この項に入る漢字は合計147字もあるが、既に述べたように筆写の場合、特に厳格さを求める時ならいざ知らず、一般に活字版のものを読解する時には、日本漢字を知っておれば、それほど困難を感じないのが普通である。したがって、これらの漢字は分類上、一応“異形略字”の項目に入れたのであるが、“偏旁簡略字”よりも、日本人には分り易い中国漢字であると思われる。なおここに分類された147字を学年別に示すとつぎのとおりである。

(学年) (字数) (左は日本漢字, 右が中国漢字)

1	8	空 空 夕 夕	校 校	音 音	字 字	文 文	立 立	天 天
2	22	今 今 近 近 原 原	戸 戸 京 京 家 家	方 方 夜 夜 通 通	市 市 店 店 高 高	交 交 室 室 強 強	毎 毎 海 海 船 船	考 考 食 食 雪 雪
3	36	反 反 返 返 育 育 旅 旅 郵 郵 鼻 鼻	写 写 具 具 客 客 流 流 寒 寒	安 安 定 定 度 度 病 病 植 植	守 守 所 所 炭 炭 院 院 童 童	坂 坂 放 放 追 追 商 商 着 着	究 究 板 板 送 送 族 族 意 意	角 角 直 直 庭 庭 深 深 暗 暗
4	30	包 包 底 底 案 案 望 望 器 器	衣 衣 官 官 真 真 博 博 辞 辞	位 位 府 府 航 航 景 景	別 別 倍 倍 速 速 置 置	完 完 害 害 停 停 察 察	良 良 差 差 宿 宿 旗 旗	卒 卒 席 席 康 康 管 管
5	22	団 団 迷 迷 接 接 演 演	序 序 退 退 液 液	防 防 逆 逆 率 率	舎 舎 容 容 富 富	版 版 称 称 解 解	述 述 造 造 境 境	查 查 寄 寄 德 德
6	29	亡 亡	穴 穴	宇 宇	宅 宅	仄 仄	忘 忘	刻 刻



宗 宗 宝 宝 宙 宙 泣 泣 卷 卷 宣 宣 派 派  
 肺 肺 值 值 謝 謝 座 座 朗 朗 降 降 探 探  
 翌 翌 割 割 勤 勤 就 就 痛 痛 需 需 熱 熱  
 糖 糖

2 同形略字(32字) 日中双方で共通に通用している略字であり、学年別に示すと以下のとおりである。

(学年) (字数) (略字)

1	1	学										
2	12	会	汽	国	数	声	体	台	昼	点	当	麦
		来										
3	4	医	号	万	礼							
4	5	区	参	静	争	灯						
5	8	旧	蚕	条	状	属	断	独	余			
6	2	党	乱									

以上「教育漢字」996字の字形を基準として、これに中国の現行通用漢字をいちいち照合して、その相違点を明らかにしたのであるが、この全貌を数字で現わすと、別表〔1〕のとおりである。

ここでこの「表」によって、別の角度から整理してみよう。日本漢字に慣れているものにとって、中国漢字のうち最も分りにくいのは：

① 「同音代替字」(10字)と「形声字」(32字)であろう。これらの簡略字は、すべて中国語音を基本にして代替または創造された漢字であるため、中国語音による字音を理解しない限り、すぐには納得のできない漢字である。これらの漢字は中国人にとっては、むしろ覚えやすい漢字に属するのであって、中国の文字改革の一般的趨勢からいえば、語音を基本にした漢字の簡略化——つまり筆画数の少ない同音異義字による代替(いわゆる当字)或はその一部分(特に“つくり”の部分)を活用する方法——が増加する傾向にあると思われる。というのは、中国人にとっては便利な簡略化であるからである。だが、日本人にとっては最も理解し難い漢字になってしまうのである。だが現在通用しているこれらの漢字は合計42字に過ぎず、「教育漢字」996字のわずか4.2%に止まっているのが、せめてもの幸いというべきであろう。

② 「部分省略字」(46字)、「草書楷化字」(16字)、「異体字」(13字)、「異形字」(90字)などは、どちらかといえば旧漢字を知っているものにとっては、左程むつかしく考えなくても

よい簡略字群である。もっとも「部分省略字」の中には、思い切った省略法を採っているもので、一見奇異に感じる字、例えば“归, 电, 习, 业, 开, 儿, 丰, 乡, 从, 关”などがあって、戸迷うことがある。また「草書楷化字」つまり漢字の草書体を楷書化したもので、この中には漢字の均衡性を欠く略字、例えば „书”, またまぎらわしい „车, 东, 乐” などがある。「異形字」(90字)には日本字の方が筆画数の少ない漢字もあり、また簡略の仕方にもやや不統一のところがあって細かく分類することができないので、すべてこの項目に入れたのである。いい変えれば、その中には「会意字」「省略字」「一部草書」「旧漢字」等に属すると思われる漢字も含まれているが、日本漢字と字形を異にするもの(1~5項にあげたものを除く)をすべて包括した。これらの総数は165字であり「教育漢字」996字の16.6%に及ぶ。

③「偏旁簡略字」(104字)は、中国現行漢字の偏旁の簡略字形を覚えこめば容易に理解できる態のもので、左程困難なものではない。また「筆法不同字」(147字)に至っては、むしろその区別をはっきり覚えこむ方がむつかしいくらいである。したがって、この147字を「日中同形字」の中に加えてもよいのであるが、日本側の底本が「教育漢字」である以上、字形や画数が同様であっても運筆のちがいが、小学生にとっては大へんな負担となるはずである。そのことを考慮に入れたため、日本漢字とは異形の項目に加えたのである。なお百分率をみると「偏旁簡略字」は10.4%、「筆法不同字」は14.75%となる。

日本漢字と中国漢字の相違点は以上の説明で明確にされたのであるが、その難易度の角度からさらに整理すると、以下のようになるであろう。

①最も分りにくいと思われる中国漢字は「同音代替字」と「形声字」で、これらの漢字は字数の上で「教育漢字」に占める百分率は4.21%に過ぎない。

②字形がちがっているため、取付きにくい漢字ばかりであるが、例えば「一部分の省略字」「草書の楷書化字」「異体文字」などと、個々に検討して、日本漢字とのちがいを吟味していけば、左程困難ではないと思われる。ここに占める百分率は16.66%となる。

③字形が異っているが、比較的理解しやすい「偏旁簡略字」と字形や画数が同じでも、運筆の異なる「筆法不同字」は、厳密に言えばやはり日本漢字とちがっているのである。だが、①②の漢字に比べて理解しやすく、百分率は「偏旁簡略字」が10.44%、「筆法不同字」が14.75%である。

最後に日中共通の漢字はどれほどあるのか。「教育漢字」と比較してみると、「同形略字」(32字)と全くの同形字(506字)があり、これらの漢字が占める百分率は53.91%となる。

### Ⅲ 中国簡体字の前途

日本における漢字教育は、その導入から基礎固めをするまで、すべて小学教育において行われている。それは『小学校指導書・国語編』（文部省）の「学年別漢字配当表」<sup>①</sup>によって小学6年間に、学年別に段階的に合計996字が教えられている。『指導書』の第6学年の目標と内容の節で、文字に関しては：「第1学年から第6学年までに配当されている漢字を含めて1,000字ぐらいの漢字を読み、その大体を書くこと。」と指導されている。

これが日本における基礎的な漢字教育の目標であり、同時にそれは、日本文を読み書きする上での最少限必要な漢字数であると見做されるのである。

日中両国現行漢字の異同については、すでにその具体例をまとめて上述したのであるが、では日中双方の漢字のちがいをどのようにして調整するのか、いやそのようなことができるのかどうか。私見を述べる前に、もう一度原点にかえって、漢字そのものを考えてみよう。

漢字は本来“漢語”（中国語）を表記する表意文字を主体とする文字である。だが社会の進展とともに、その造字法において表音的要素を加味せざるを得なくなって来た。今日では現行漢字はむしろ完全なる表意文字よりも表音文字の方が、その数量において遙かに多いのが実状である。したがって今後に予想される簡略字も造字法から推測すれば、まず語音を基調として創造されることになるであろう。

ついで考えられるのは、現行漢字の画数を削減する造字法である。漢字は前述のように、たとえ語音を基調として表音的要素を主体とするものであっても、それはいわゆる“表音文字”ではない。漢字は本来表意文字であるため、その字形だけを見て表音文字のように読みやすいものではない。漢字は読みにくい、覚えにくい、書きにくい、というのが漢字の欠点であり、筆画数の多い漢字ほどこの欠点は大きくなる。中国語を表記するのに漢字以外にその工具を有していない中国では、漢字が有している欠点を、できるだけ削減するよう望むのは当然のことであり、その切実さは、「漢字と仮名」を混用して表記する日本では想像もできないことであろう。

中国では、'85年12月に「中国文字改革委員会」が改組されて「中国国家語言文字工作委員会」と改称した。ついで、'86年1月6日より13日まで北京において「全国語言文字工作會議」が開催された。劉导生国家語言文字工作委員会主任は、その開会に当り基調報告を行なったが、その要点はつぎの5点である。

① 漢字は法定文字である。“漢語拼音”（ローマ字による表音）は漢字に代る表音文字では

ない。

② 漢字の前途については周恩来報告<sup>⑦</sup>に従う。

③ 漢字の簡略化は慎重に行ない、一定期間内に安定させる。

④ 第2次簡略化方案(草案)<sup>⑧</sup>は111文字に絞ったが、さらに研究を重ね、万全の処理をする必要がある。

⑤ 今後の方針と任務。方針：政策、法令として貫徹執行すること。言語文字の規範化、標準化を促進すること。任務：現代中国語の規範化と“普通話”(共通語)の普及。現行漢字を研究、整理して標準を制定する。“拼音”の推進。20世紀中に(a)各級学校教育は“普通話”で行なう (b)各級機関の公式活動は“普通話”で行なう (c)ラジオ、テレビ、映画、新演劇は“普通話”を採用する。

また同会議の閉幕に当り、陳章太国家語言文字工作委员会副主任は、中央機関に対し第2次漢字簡略化方案(草案)の試用を停止する一方、当面社会に使用されている漢字の混乱状態を正し、これに干渉するようその早期決断を迫る要請を行なっている。因みに第六期全人代第四回会議は3月25日に招集されることになった。

#### IV 統一は可能か

文字改革に関する以上のような動向から推測すれば、中国の漢字簡略化を含む文字改革は、ここで一段落をつけ、これまでに普及されてきた第1次漢字簡略化方案を徹底的に実行し、これ以外に民間で通用している簡略字や異体字を排除する構えをみせている。したがって、漢字に関する限り中国ではこれ以上簡略文字を増加する必要がない、と考える一方、これまでに正式に発表された簡略文字については、これを削減する考えのないこと、いなむしろ共通語の拡充・普及とともに徹底的に教育する決意を表明しているのである。

だとすれば、日中双方の通用漢字のちがいによって、不便を感じている人たちが希望するように、その統一ができるであろうか。すでに上述したように、漢字は中国語を表記する工具として中国で生れたものである。中国語にとっては、漢字以外にその表記手段を有していない。一方漢字はまた日本語を表記する工具として活用されているが、それは一部分であって、漢字・仮名まじり文が日本語を表記する上で最も便利な手段だとされている。文字は言語を表記する工具として発達してきたものであるから、その言語の性質のちがいによって文字も相異なるのが当然である。日本語が漢字・仮名まじり文で表記されるのが最も自然であり、理にかなった方法であるのと同様、中国語は漢字によって表記されるのが最も自然である。周知の如く

言語の性質を異にするからである。日本語と中国語は異質の言語であり、それぞれの特徴と伝統によって、その発展の方途を異にするものであり、言語の面から見て両者が融合して一体化することは有り得ないことである<sup>⑧</sup>。だとすれば、それを表記する符号ともいべき文字も、同一共通にしようとする自体が不自然であるといわざるを得ない。それぞれの言語の発展に対応して、より便利な文字を考案するのが、それぞれの任務であるとすれば、政治的に共通化を計るのであればいざ知らず、純粋に科学的に文字と言語の関係を基本に置いて考えた場合、既成の簡略漢字の“日中同形”を望むことは後の祭に等しいものである、というほかはない。

註：この報告は1985年6月、交換教授として関西大学の姉妹校である遼寧大学へ出向した際、同大学中文系から提出されていたテーマ「中日両国簡体漢字的異同」（原文は中国文で約7000字。その後8月北京香山での「第1届国際漢語教学討論会」において、その要旨を2800字にまとめて発表した）を本紀要に書き直したものである。原文は中国人研究者を対象として書き、且つそれを材にして口頭報告したものであるが、本稿はその原文をそのまま日本語に翻訳したものではないことを、お断りしておく。

- ① 「第1次漢字簡化方案」が正式に国務院で採択されたのは1956年1月28日で、第1表230字の簡略字は2月1日から全国的に印刷・筆写を問わず一律に使用された。第2表285字と簡略化された偏旁合計54個は試験的に使用されたが、今日までの30年間に中国での印刷刊行物は殆んどこの方案に依っており、も早や動かすことのできないほど固まったと見るべきであろう。
- ② 遼寧大学中文系から“日中両国における略字のちがいについて”の講演をするように依頼を受けたのは、そこにどのような意図があったのか詳らかにすることができなかったが、私が個々に接して得た感覚からすれば、日本留学生に中国語を教えている教員たちの間では、日本留学生の書く漢字が分りにくい、同じ漢字を使っているのであるから、略字も同じである方がお互いに利便を受ける、という意見が圧倒的に多かった。
- ③ 「教育漢字」996字が制定されるまでの漢字の歴史を説明する必要があったので、明治維新前後からの漢字廃止論、1918（大正7）年原敬内閣の臨時国語調査会による漢字の削減、1931（昭和6）年の新聞社7社による常用漢字1858字の審査、1936（昭和11）年の国語審議会の新設および1942（昭和17）年同審議会の標準漢字表（2528字）作成。戦後米軍司令部の漢字廃止・表音文字採用の通達、その後1946（昭21）年の内閣訓令による当用漢字表（1850字）の告示、この中から1947（昭22）年の基礎漢字（881字）の制定、さらに1968（昭43）年に預備漢字115字を加えて合計996字を「教育漢字」とした経緯を詳述したが、本稿では省略した。
- ④ 中国での現行常用漢字はどれほどあるのか。  
「五年制小学課本語文」10冊の新出漢字は1年696字、2年964字、3年681字、4年435字、5年324字の合計3100字である。  
四川人民出版社の小中学生用ポケット常用字典では4800字を取めている。  
北京語言学院の語言教学研究所が編した『常用字和常用詞』では1978～80年に出版された全国通用の中小学校の国語教科書から全ての語彙を取り出して統計と分析を行なったものであり、出現数の多い順番に排列した常用漢字1000字、また頻度の高い順に排列した常用詞3817語がある。  
因みに『新華字典』は異体字を含めて漢字は8500、語彙は約3200語を取めている。なお比較対照する字形はこの字典に拠ることにした。
- ⑤ 日中両国の字形を異にする漢字を対比する方法として8種類に分けてみたのであるが、なお検討の余

地があると思われる。

- ⑥ 「学年別漢字配当表」によると、第一学年76字、第2学年145字、第3・4・5学年各195字、第6学年190字に分けて、合計996字を小学6年間に教えている。なお、この配当表を別表〔2〕とした。

- ⑦ 正式には『当前文字改革的任務』（文字改革の当面の任務）と題して周恩来総理が行なった報告である。報告の最後で“漢字の前途”について次のように述べている。

至于汉字的前途，它是不是千秋万岁永远不变呢？还是要变呢？它是向着汉字自己的形体变化呢？还是被拼音文字代替呢？它为拉丁字母式的拼音字母所代替，还是为另一种形式的拼音字母所代替呢？这个问题我们现在还不忙作出结论。（訳：漢字の前途について、それはいついつまでも永遠に変わらないのであるかどうか？それとも変るのであるのか？それは漢字そのものの形体にそって変化するか？それとも表音文字に代えられるのか？それはラテン字母式の表音文字によって代えられるのか、それとも別の形式の表音文字によって代えられるのか？この問題はわれわれがいま急いで結論を出さなくともよいのである。1958年『人民手冊』614頁）

- ⑧ 第2次漢字簡化方案（草案）は1977年12月20日、中国文字改革委員会から発表された第1表248字、第2表269字から成る略字であるが、このうち第1表は草案発表の翌日から「人民日報」や「紅旗」等の全国的刊行物で試用されることになった。この思い切った強行策に対して賛否両論が鋭く対立し、その結果「人民日報」は78年5月1日から元に戻し、以後「第2次案」は印刷物では使用しなくなり、同年末には第1表の略字は全て姿を消してしまった。但し手書きの場合は或程度普及されている。例えば個人間の手紙はもちろんのこと、大学食堂等の手書きのメニューや黒板に書く通知等には盛んに用いられているのが現状である。

- ⑨ 言語の性質に最も適した表記法、つまり文字はそのことばが多音節詞が優勢であるか単音節詞が優勢であるかによって、表音文字が便利であるか否かを決定する。この点、日本語は古来多音節詞が多いのに比べて、中国語は単音節詞が基本語彙であった。したがって、日本語を表記する場合、漢字のみでは不便極りなく、漢字から仮名文字を創造するに至った。この事実がことばと文字との関係を雄弁に物語っている。しかし漢字を放棄することができないのは、余りにも永い間漢字の恩恵を受け、特に日本語彙に占める“漢語”（漢字で構成されることばのこと。本来中国語の語彙が多いが、日本で造った語彙もある）の比率が極めて高いからである。

さらにいえば、日本語と中国語は音素にもちがいがあがあるため、語音を基調にした漢字の簡略化を双方共通にすることはむつかしく、また漢字の画数を削減して簡略化する場合でも、日中両国間には漢字に対する貴重度の感覚がちがっていることもあって、必ずしも一致するとは限らない。しかも中国では第1次簡化方案を実施して以来、すでに30年の歳月が流れている。加えてこの30年間に定着して来た簡略字を一層不動のものとする考えを固めている現在、日中共通の略字を再検討しようという誘いには乗って来るはずがないのではないか。東南アジア各国、特にシンガポールやマレーシアでは、大体において中国の簡体字に適応させていることからみても、新たに混乱を助長するような政策は採らないものと思われる。

ここで想起されるのは1966年5月に中国科学院語言研究所の招待を受けた中国語学会の代表の一員として訪中した際、懇談の席で聞き得た次のことばである。「中国が簡体字を実施してから已に10年になる。日本では“日中同文”をよく口にされるが、中国の文字改革に対し一向に関心を示さない。それは中国の現代語をぬきにして古典にのみ注意を払っているからであろう。将来、日中両国の漢字が全くちがうようになった時、現代語を学ばずして中国の事情が理解できないことに気付くであろう」そしてまた「中国古典の研究では、日本は他国より優れているが、現代中国の研究では日本は米国からも遅れている」——20年前に聞いた日本の中国学研究に対する一批評であったが、この稿を草するに当って

中国側の言語・文字・文化に対する見解の一端を知る上で参考になったので、あえて紹介することにした。

別表〔1〕

「教育漢字」と中国漢字の比較

		学年						合計
		1	2	3	4	5	6	
異 同	簡略法	76	145	195	195	195	190	996
	異形							
異 形	同音代替字	0	1	3	0	3	3	10
	部分省略字	1	6	8	10	13	8	46
	草書楷化字	2	10	3	1	0	0	16
	形声字	0	1	5	11	9	6	32
	異体字	0	1	3	0	6	3	13
	異形字	1	5	11	27	21	25	90
	偏旁簡略字	0	12	17	22	33	20	104
筆法不同字	8	22	36	30	22	29	147	
同 形	同形略字	1	12	4	5	8	2	32
	同形字	63	75	105	89	80	94	506

別表〔2〕

学年別漢字配当表

第 一 学 年	一右兩田王音下火花学氣九休金空月犬見五口 一校左三山子四糸字耳七車手十出女小上森人水 学正生青夕石赤千川先早足村大男中虫町天田土 年二日入年白八百文木本名目立力林六 (76字)
第 二	引雲遠何科夏家歌画回会海絵貝外間顔汽記帰 牛魚京教強玉近形計元原戸古午後語工広交光 行考高黄合谷国黒今才作算止市思紙寺自時室 社弱首秋春書少場色食心新親囹数西声星晴切

<p>学 年</p>	<p>雪船前組走草多太体台池地知竹茶昼長鳥朝通                  弟店点電冬刀当東答頭同道読南馬買売麦半番                  父風分聞米歩母方北毎妹明鳴毛門夜野友用曜                  来楽里理話 (145字)</p>
<p>第 三 学 年</p>	<p>悪安暗医意育員院飲運泳馭園横屋温化荷界開                  階角活寒感館岸岩起期客究急級宮球去橋業曲                  局銀苦具君兄係輕血決県研言庫湖公向幸港号                  根祭細仕死使始指齒詩次事持式実写者主守取                  酒受州拾終習週集住重所暑助昭消商章勝乘植                  申身神深進世整線全送息族他打对待代第題炭                  短着注柱帳調直追丁定庭鉄転都度投島湯登等                  動童内肉農波配畑発反坂板皮悲美鼻氷表秒病                  品負部服福物平返勉放万味命面問役薬由油有                  遊予洋葉陽様落流旅両緑礼列路和 (195字)</p>
<p>第 四 学 年</p>	<p>愛案衣以囿位委胃印英榮塩央億加貨課芽改械                  害各覚完官漢管関観願希季紀喜旗器機議求救                  給挙漁共協鏡競極区軍郡型景芸欠結建健験固                  功候航康告差菜最材昨刷殺察参散産残士氏史                  司姉試辞失借種周宿順初省唱照賞焼臣信真成                  清勢静席積折節説浅戦選然争相倉想象速側続                  卒孫帯隊達単談治置貯腸低底停的典伝徒努灯                  堂働毒熱念敗倍博飯飛費必筆票標不夫付府副</p>



	<p>粉兵別刃變便包法望牧末滿脈民約勇要養浴利 陸良料量輪類令冷例歷連練老勞錄 (195字)</p>
<p>第 五 學 年</p>	<p>庄易移因永營衛益液演往忘恩假果河過佃賀快 解格確額刊幹慣歎眼基寄規技義逆久旧居許境 興均禁句訓群經潔件券險檢絹限現減故個護効 厚耕構講鉞混查再災妻採際在財罪雜蚤酸贊支 示志師資似兒識質舍謝授收修衆祝述術準序除 招承称証条状常情織職制性政精製稅責績接設 舌絕錢善祖素綵造像增則測属損退貸態团断築 張提程敵適統銅導特得德独任燃能破犯判版比 非肥備依評貧布婦富武復複仏編弁保墓報豐防 貿暴未務無迷綿輸余預容率略留領 (195字)</p>
<p>第 六 學 年</p>	<p>異遺域堯宇羽映延沿可我灰街革拔閣割株干卷 看勸簡丸危机揮貴疑弓吸泣供胸鄉勤筋系徑敬 警劇穴兼憲權源巖己呼誤后好孝皇紅降鋼刻穀 骨困砂座濟裁策冊至私姿視詞誌磁射捨尺帑若 需樹宗就從縱縮熟純処署諸將笑傷障城蒸針仁 垂推寸是聖誠宣專染泉洗奏窓創層操藏臟俗存 尊宅担探段暖值仲宙忠著斤兆頂潮賃痛展党討 糖届難式乳認納腦派揮肺背俳班晚否批秘腹奮 陞閉片補宝訪亡忘棒枚幕密盟模矢訊郭優幼羊 欲翌乱卵覽裏律臨朗論 (190字)</p>